



データシート・キャプチャ・インポートと移行

古いアーカイブを、ファイルを一つずつアップロードしていますか？ 一つのジョブで、フォルダ全体を取り込みます。

インポートウィザードは、既存のファイルを一度にWorkspaceへ取り込みます。ZIPアーカイブ、Storage Mount上のフォルダ、メールボックスが対象です。開始前のプレビュー、重複の照合、レポート付きです。AI-DMSへの移行のために作られています。

一目で分かること

ジョブごとに最大2,000ファイル、ZIPは最大5 GB、サブフォルダを含みます。開始前のプレビュー、重複のSHA-256照合、ライブの進捗、そしてジョブごとのレポート。

01・概要

古いファイルは散らばっている。 一つのジョブでまとめて取り込む。

旧DMSからの書き出し、サーバー上のスキャンフォルダ、NASに何年も蓄積されたファイル。ファイルを一つずつアップロードすると数日かかります。インポートウィザードは取り込み元を読み取り、何が来るかを事前に示し、重複を飛ばして、すべてのドキュメントを保存先のWorkspaceに登録します。そこで処理が行われます。

情報源

お使いのコンピューターからのZIPアーカイブ、Storage Mountのフォルダ（SFTP、S3、WebDAV）、メールボックス

規模

ジョブごとに最大2,000ファイル、ZIPは最大5 GB、単一ファイルは最大200 MB

結果

すべてのファイルが保存先のWorkspaceにドキュメントとして入り、そのAI-DMSティアで処理されます

アクセス

Webアプリ、REST APIおよびMCP。Starterプランから利用可能


三つの情報源

- コンピューターとネットワーク 経由のZIP、サブフォルダを含む Storage Mount の取り込み元フォルダ、または
- メールアーカイブ 経由のメールボックスのフォルダ。

開始前のプレビュー

確認ステップでは、一つのファイルも取り込まれる前に、ファイル数、合計サイズ、フォルダ、
ファイルプレビュー（最初の20件）が表示されます。

SHA-256による重複

保存先のWorkspaceにすでにある同一内容のファイルは、飛ばされます。この設定は既定でオンで、オフに切り替えることもできます。

ライブの進捗

インポートが続く間、毎秒のファイル数、毎秒のMB数、残りの見込みが表示されます。インポートを中止で停止でき、それまでに取り込んだものはそのまま残ります。

ジョブごとのレポート

終了時にレポートには、取り込み、スキップ、失敗したファイルの数が表示されます。各ジョブは詳細を保持します。

Workspaceと同じように処理

すべてのファイルは、保存先WorkspaceのAI-DMSティアを通ります。元のフォルダパスは、メタデータとしてドキュメントに残ります。

02・仕組み

四つの手順。 その後、アーカイブが移ります。

ウィザードは保存先のWorkspaceで開始します。サーバーやバケットの場合は、まずStorage Mountsで取り込み元としての接続を作成してください。

1

ウィザードを開く

Document AI › Workspaces の下で保存先のWorkspaceを選び、次に アクション › ドキュメントをインポート を選びます。

2

取り込み元を選ぶ

ZIPアーカイブには コンピューターとネットワーク 、サーバーやバケット上のフォルダには Storage Mount 、メールボックスには メールアーカイブ を選びます。

3

確認する

ファイル数、サイズ、フォルダを確認し、重複を自動的にスキップ（ハッシュベース）をオンのままにして、処理を確定します。

4

取り込む

進捗はライブで表示されます。終了後、レポートには、取り込み、スキップ、失敗したものが表示されます。

技術データ

機能	詳細
情報源	ZIPアーカイブ、SFTP、S3、WebDAV経由のStorage Mount、パスワード付きIMAPによるメールボックス
ジョブごとの上限	最大2,000ファイル、ZIPは最大5 GB、単一ファイルは最大200 MB
AI-DMSで読み取り	PDF、Office、OpenDocument、RTF、TXT、CSV、JPG、TIFF、HEICなどの画像、EML、MSG、JSON、XML
保存	音声と動画のファイルは、Workspaceにファイルとして保存されます
重複	保存先WorkspaceでのSHA-256照合。既定でオン
REST API	import/upload-source、import-create、import-scan、import-start、import-status、import-cancel
MCPツール	po_import_create、_scan、_start、_status、_cancel、_jobs_list、および po_ingest_email

03・実際の活用

一度の移行、三つのパターン。 チームの進め方。

旧DMSからの移行

旧システムはドキュメントをZIPファイルとして書き出します。年ごとに一つのジョブでアーカイブのWorkspaceへ取り込み、重なった書き出しからの重複は、その過程で除外されます。

サーバーのフォルダを段階的に

サーバー上のスキャンフォルダは、SFTPのStorage Mountで利用できるようになっています。2,000ファイルを超える場合、チームはサブフォルダごとに一つのジョブを作成し、それぞれのレポートを確認します。

メールボックスのアーカイブを取り込む

古いメールボックスの請求書フォルダは、メールアーカイブ経由で一度だけ経理に取り込まれます。各メールは、添付ファイルとともに、個別のドキュメントとして届きます。

よくある質問

フォルダ構造は引き継がれますか？

ファイルは保存先のWorkspaceに入ります。元のフォルダパスは、メタデータとして各ドキュメントに残るため、ファイルの出所は常に分かります。

ファイルをそのままの場所に残したい場合は？

その場合は、インポートではなく、インデックスモードのConnectorを使ってください。原本はお使いのストレージに残り、PaperOfficeは検索とエージェントのためにそれらを読み取ります。

2,000ファイルを超える場合はどうしますか？

アーカイブを複数のジョブに分けてください。たとえばサブフォルダごと、または年ごとです。各ジョブには、それぞれ独自のレポートがあります。

どのプランが必要ですか？

インポートウィザードはStarterプランから含まれます。料金は利用量に応じて、処理はAI-DMSティアによって決まります。詳細は料金ページに掲載されています。

はじめに

今日、最初のアーカイブを取り込みましょう。

app.paperoffice.ai でアカウントを作成し、保存先のWorkspaceを作って、そこで **アクション「ドキュメントをインポート」**を選んでください。最初のテストには、小さなZIPで十分です。

paperoffice.ai/ja/ai-import-migration-bulk-import-documents



モジュールの詳細

paperoffice.ai/ja/ai-import-migration-bulk-import-documents

料金

paperoffice.ai/en/pricing

お問い合わせ

paperoffice.ai/ja/otoiawase